

【巻頭言】

2011 年学友会総会(京都)へのお誘い

短大卒会員の積極的な参加を -

総会実行委員長 理事 堀井 均(55 回生)

2001 年から学友会総会の開催は隔年で京都と支部との間で交互に行われるようになりました。前回 2009 年の高山市(東海支部)での学友会総会には全国各地から 100 名を超える多くの会員の参加で盛会裏に終えることができ学友会の結束の強さに感激しています。

早いもので 2011 年は京都での総会となります。既に 7 月発行の学友だよりで予告しましたが 2011 年(平成 23 年)5 月 21 日(土)京都ホテルオークラにて開催することが決定しています。現在のところは開催日時と場所しか決定しておりませんが、多くの会員の方々に参加していただけるよう、これから時間をかけて準備に入り有意義な学友会総会になるようにしたいと考えています。準備を進めるに当たり本年 7 月には各支部長宛に総会と同時開催の講演会の演者をご紹介いただくために案内状を発送しています。会員各位の中でも推薦候補者をご存じでしたらぜひ本部までご連絡をお願いいたします。

本学友会の歴史は昭和 3 年の発足から 83 年を迎えます。他校の同窓会活動の多くが沈滞、壊滅状況にあるなか学友会が順調に推移しているのは、本部および支部の活動が連携良く機能していること、定期的に発行される「学友だより」により情報発信されていること、定期的な支部総会の開催と本部役員、教員の参加があること、および 2 年ごとに開催される全国総会等が大きな要因だと思います。

ただ近年、理事会で話題となるのは支部並びに全国総会に参加する会員は専門学校時代の卒業生が主で、短大卒業生の参加者は増加しているものの期待より少ない状態であります。若手の会員の参加の低さはどの同窓会組織でも同じ傾向であるようです。若い世代の積極的な参加が今後の学友会活動に大きな影響を与えることとなるでしょう。最近の会誌「学友だより」を見ていると、短大卒の同窓会開催の案内や報告、新人技師としての近況報告の記事が多く掲載されていることから、クラス会への参加はされているようです。学友会の役割は、会則にも書かれていますように「学友同士の親睦」と「母校の発展への協力と後援」ですが、順調に活動が継続しているのも、これまで本会の歴史を築いてこられた先輩諸氏の地道な功績と思います。今後もこの名誉ある伝統を守り、さらなる発展を実現させることが短大卒の会員の役割だとも思います。若い方々の積極的な参加を期待しています。

最後に、今回の総会もクラス会の開催、遠方の方の日帰り参加も可能なように終了時間を早めました。今回の総会は 4 年制大学として初めて卒業生を送り出した大学の近況報告も我々会員には興味深いものとなるでしょう。総会には大学関係者や恩師の先生方にも出席していただきたいと考えていますので、多くの同級生が誘い合い、また職場の先輩は後輩を誘い、思い出の京都で旧交を温めてください。繰り返しますが学友会は幅広い世代の参加によって盛り上がります。若い会員(短大卒)が気軽に参加でき、先輩と何でも話し合える懇親の場として、後世に引き継ぎたいものです。皆さま方の参加を準備委員ならびに本部役員一同心からお待ちしております。

以上

* 通巻 197 号 2010 年 10 月 10 日発行(H22 - No.3)より